

話 題 2008年(平成20年)5月21日(水曜日)

筑波農場で田植えとご飯炊き

25日に、いななか体験応援隊



のきで、るく
掛けつく
うの掛長
ソウんび社
田を呼保小
なを久市
れ加を小
参小市
ば

している。

同農場は有機米生産の一環として、田んぼでレンゲソウを栽培、田植え前にすき込んでいく。今回は、筑波農場ならではの田植えが体験できる。また、かまどで炊いた

参加者募集

つくば市農政課は、25日に、同市小田の筑波農場で実施する、つくば・いななか体験応援隊「田植えとかまどご飯炊き体験」の参加希望者を募集している。新緑の筑波山のふもとにある同農場の広い田んぼで、田植えが体験できる。

同地区産の北条米はかつて献上米として知られた。同農場は有機肥料をふんだんに使い、農薬の使用を最低限に抑え、低温倉庫で14度前後に保たれるなど、1年中、最高の状態を保っている。1993年度から食味検定機で90点を常にクリアし、安全で味のいい、まぼろしの米「常陸小田米」として販売

ご飯、手づくりトン汁などが味わえる。参加費は大人(中学生以上)2000円、小人(小学生以下)500円。常陸小田米(1・5キ)の土産付き。募集は先着100人。参加者は帽子、タオル、着替え、不要な靴下か長靴を用意する。午前9時集合。

同農場の小久保貴史社長は「植え方はベテラン農家が親切に指導します。終了後はまきで炊き上げた熱々のご飯を味わってもらいます。ぜひ多くの人に参加してもらいたい」と話している。

申し込みは21日までに、同農場(電話029・8667・3433、ファクス029・867・3272)まで。
(園部高秀)